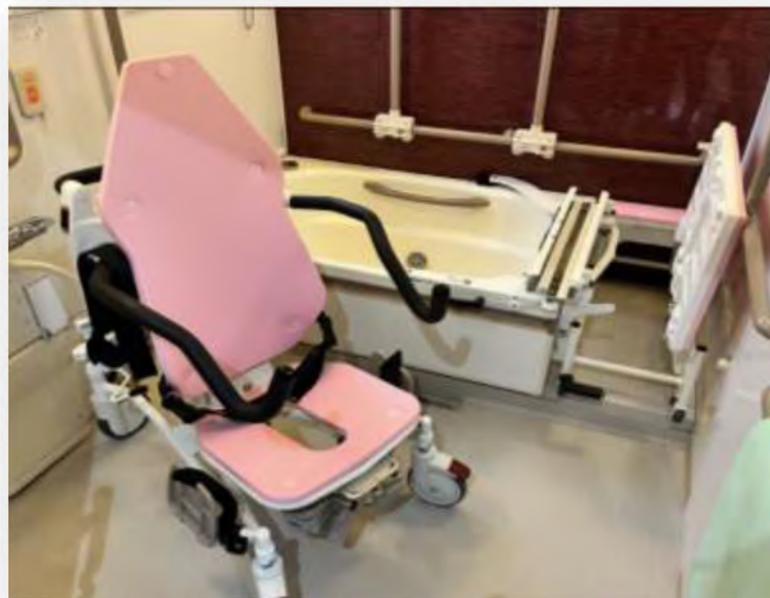


アドバンスト施設による 次世代介護機器導入事例



風のアلبム



有限会社風のアلبム
小規模多機能型居宅介護風のアلبム

本日お話しする内容

- 施設概要
- 導入した次世代介護機器
- 導入の手順
- 取組内容（手順1～6）
- 取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと
- 次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

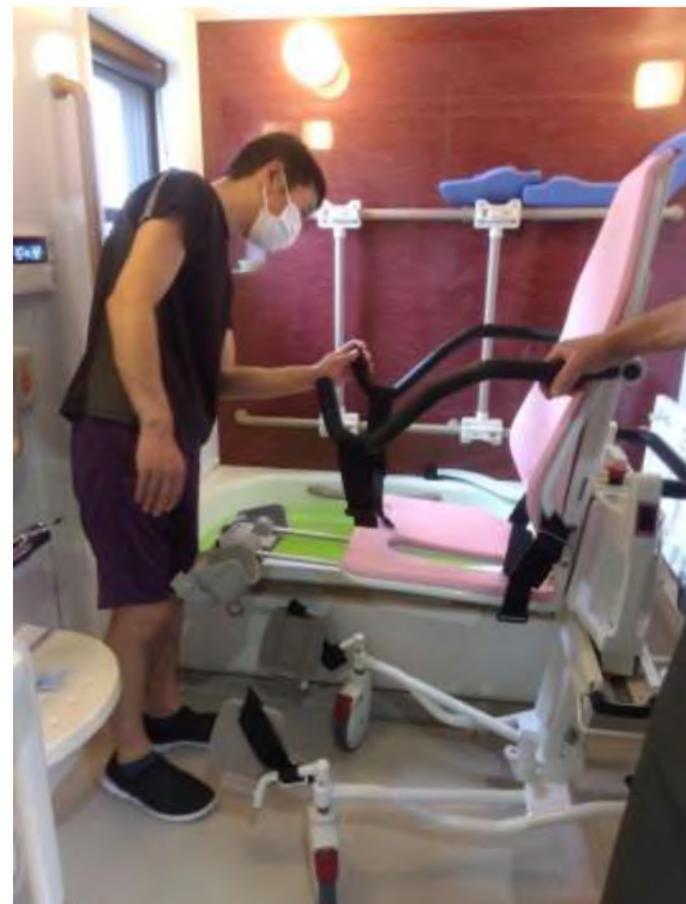
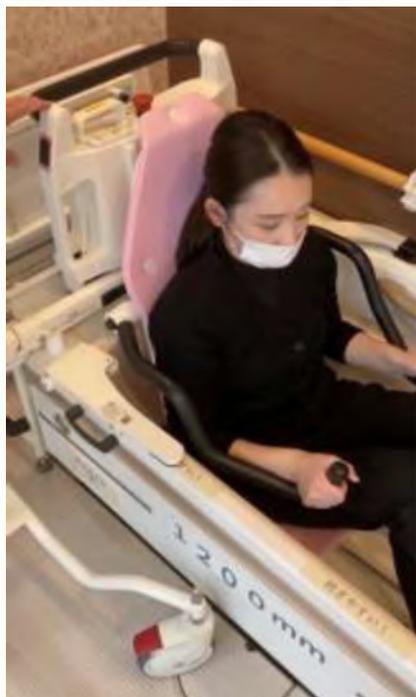
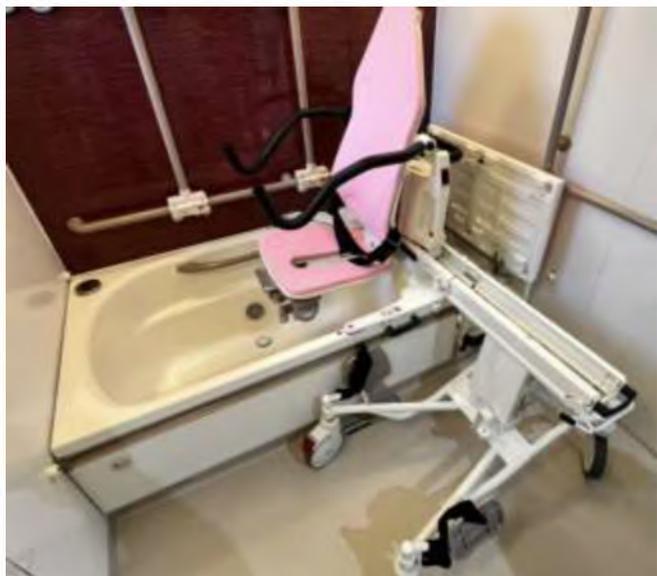
施設概要

運営法人	有限会社 風のアルバム
施設名	小規模多機能型居宅介護 風のアルバム
所在地	東京都八王子市西寺方町25番地2
定員	29名
平均介護度	2.6(令和7年5月度)
職員数	看護師2名、介護支援専門員1名、事務員1名、 介護職員20名 (うち2名ドライバー兼務、 5名調理師兼務)
特徴	<p>当施設は平成25年に開設された小規模多機能型居宅介護事業所である。建物は3階建て、建築から12年経過している。2.3階部分はグループホームを運営しており、両事業所の職員・利用者交流がさかんに行われている。</p> <p>職員の平均年齢は59歳と人生経験が豊富な中高年が中心。これまで次世代機器の導入はなく人の手による丁寧なケアを重要視していたが、時代の変化や効率化の必要性を踏まえ、導入に新しい一歩を踏み出したばかり。</p>



導入した次世代介護機器

メーカー名	積水ホームテクノ株式会社
機器名	wellsリフトキャリア-WLC-200
台数	1台



導入の手順

導入の6つの手順

手順 1	改善活動の準備をしよう	<ul style="list-style-type: none">● 情報収集● 取組に対する組織全体での合意形成● 実施体制の整備
手順 2	現場の課題を 見える化しよう	<ul style="list-style-type: none">● 課題の見える化
手順 3	実行計画を 立てよう	<ul style="list-style-type: none">● 導入計画づくり● 対象利用者の選定
手順 4	改善活動に 取り組もう	<ul style="list-style-type: none">● 導入準備● 次世代介護機器の活用● 小さな成功事例
手順 5	改善活動を 振り返ろう	<ul style="list-style-type: none">● 効果検証● 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析
手順 6	実行計画を 練り直そう	<ul style="list-style-type: none">● 実行計画の練り直し

取組期間： 約8カ月

取組実施者： 約9名

**職種： 介護、看護、
介護支援専門員**

出典：「介護ロボットのパッケージ導入モデル（改訂版）」をもとに作成

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間：2月1日～2月19日

手順 1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 情報収集

- 身体的な負担から、介護職員の入浴業務の負担の訴えが多かった。
- 移乗リフトの展示コーナーの見学・体験利用を行った。
- リフトキャリー等の入浴支援機器導入済の施設見学を行い、率直な意見を聞いた。
- 販売企業へのヒアリング
⇒たまたま施設に立ち寄ったメーカーの営業担当に詳しい機能性を説明してもらった。

● 取組に対する組織全体での合意形成

- 職員の声を受け、管理層が経営層に打診
→運営会議にて導入プロジェクトの承認を受ける
- 職員合同会にて、機器導入の発表を行う
- 導入後に得られる効果により、目指していきたい施設運営の再確認を行い、職員を巻き込んだ協力体制をつくる

手順 1 : 改善活動の準備をしよう

取組期間 : 2月1日～2月19日

手順
1

- 情報収集
- 取組に対する組織全体での合意形成
- 実施体制の整備

● 実施体制の整備

	役職	チーム内での役割
1	施設長	統括責任者・情報収集・決裁者への提案・補助金申請
2	管理者	リーダー チームの管理監督
3	看護師	リスクの検討・改善策の提案
4	介護職員	事務、調査担当
5	介護職員	研修・マニュアル作成・ルール担当
6	介護職員	技術担当

手順 2 : 現場の課題を見える化しよう

取組期間 : 2月20日～2月24日

手順 2

- 課題の見える化

● 課題の見える化

原因

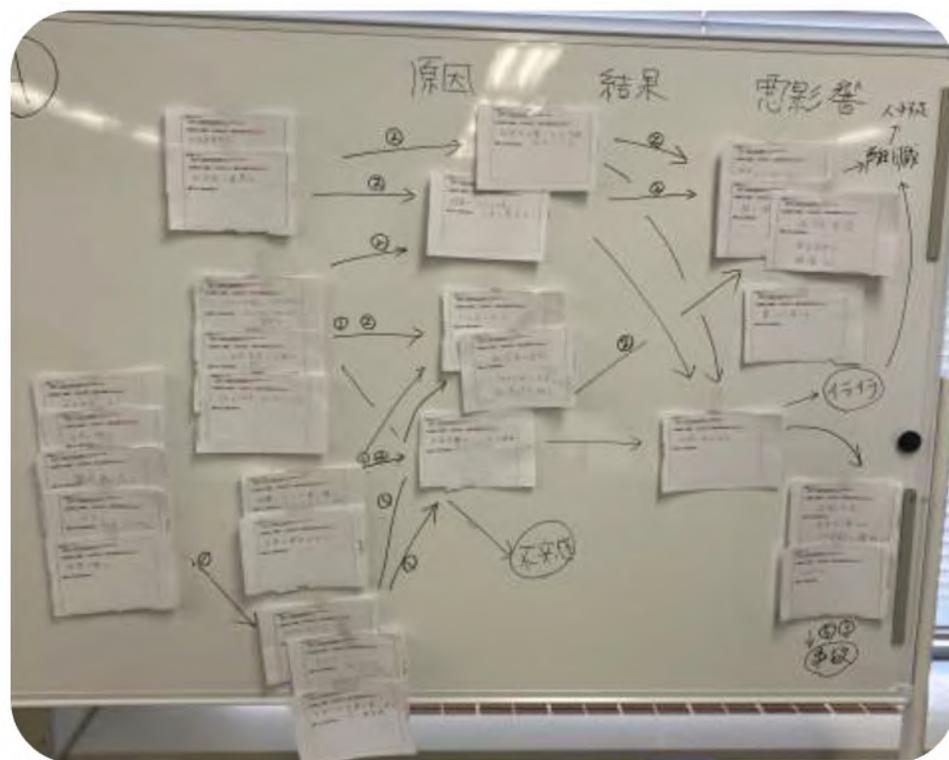
- ・介助を職員の力に依存している
- ・洗体の際に使用している椅子が不安定
- ・浴槽を跨げない利用者がある

結果

- ・移乗の回数が多い
- ・不安定な体位での洗体が行われている
- ・浴槽に浸かれないままの利用者がある
- ・職員の2名体制での介助を要することがある

悪影響

- ・職員に身体的・精神的な負担が蓄積する
- ・人的リソースに余裕がない
- ・サービスに差が生まれ、満足度が下がる
- ・安全性、ケアの質に不安要素が残る



手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 2月25日～3月6日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 導入計画づくり

□ 課題解決に向けた道筋

入浴時の移乗介助を介護職員の力に頼っていること、洗体の際に使用している椅子が不安定である事に対し、入浴支援機器を導入することにより、移乗回数の減少や不安定な体位での洗体がなくなり、介護職員 2 名を要する介助が少なくなり、介護職員の精神的負担(事故や怪我への不安)の軽減、利用者様が浴槽を跨げないという事がなくなり、事業所を利用するすべての利用者様がお湯に浸かる事ができることが期待できる。

□ 導入する次世代介護機器

wellsリフトキャリア-WLC-200

□ 成果指標

- 職員の介助体制(2名介助→1名介助が可能になった件)
- 機器導入前後の入浴介助における身体的、精神的な負担度合い(5段階評価)
- 浴槽に浸かることのできる利用者 56%→100%
- 必要な移乗回数のカウント
- 職員の離職率

⇒アンケート調査、カウントにより数値化する。

手順 3 : 実行計画を立てよう

取組期間 : 3月7日～3月12日

手順 3

- 導入計画づくり
- 対象利用者の選定

● 対象利用者の選定

□ 選定した利用者

- ・ A様 要介護5、下肢の筋力低下により立位保持が不安定な利用者
- ・ B様 要介護5、筋力低下あり 長年お風呂に入れず垢が落とし切れていない方

□ 選定理由

- ・ 日常的に2名介助での対応を要する場面が多く、職員の身体的な負担が大きいため
- ・ 立位保持困難であり、転倒リスクが高いので、職員の精神的な負担も大きいため

□ 選定する際に留意した点

- ・ 本人及びご家族の同意を得たうえで実施
- ・ 心身の状態が安定していることを確認
- ・ お風呂が好きであったかご家族から聴取
- ・ **使用する上で拒否がない方**
- ・ **指示が入りやすい方**

⇒必ず成功できる方を選定させていただいた

手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：3月10日～3月21日

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 導入準備

□ 実施内容

①置き場所を決める

- 誰が見ても「ここにある」と分かるようにするため
- 動線の中で邪魔にならず、かつすぐ取り出せる位置に設置

②使用マニュアルを作成

- 見る人の立場でわかりやすく、一目で使える内容に
- 写真・手順・注意点を簡潔にまとめ、紙でも現場に掲示

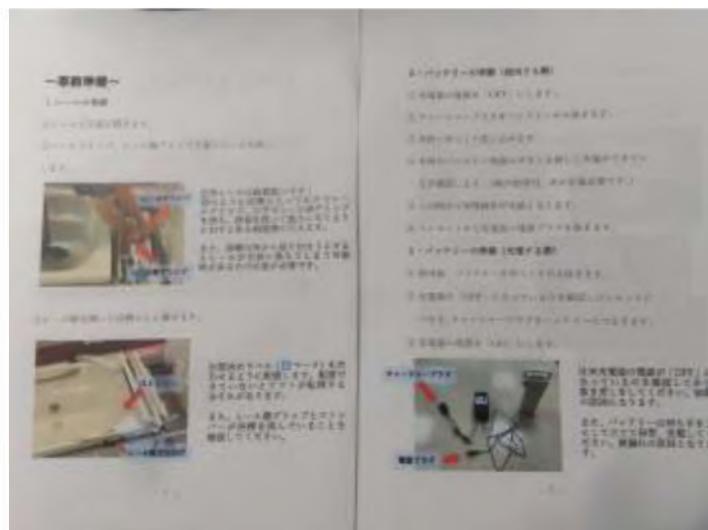
③充電の頻度・ルールを決める

- いざ使おうと思ったときに「電源が切れていた」を防ぐため

□ 導入にあたって大切にしたいポイント

使えない理由を減らすこと！

電池切れや分からない操作があると、「やっぱり手でやった方が早い」と思ってしまう。



手順4：改善活動に取り組もう

取組期間：3月22日～3月31日

手順4

- 導入準備
- 次世代介護機器の活用
- 小さな成功事例

● 小さな成功事例の共有

□ 職員の声

難しい操作がなく、安全。継続して使用する自信がついた！

操作がシンプルで分かりやすい。車いすへの移乗も高さ調節できて楽。

□ 利用者の様子、変化

B様がとても気持ち良さそうな顔をしていた！

垢がでたい、身体が温まっていた。皮膚にとっていいことができた。

□ 成功事例の共有方法

小さな成功事例を記載するボードを用意し、誰もが閲覧する場所に設置

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月1日～9月15日

手順
5

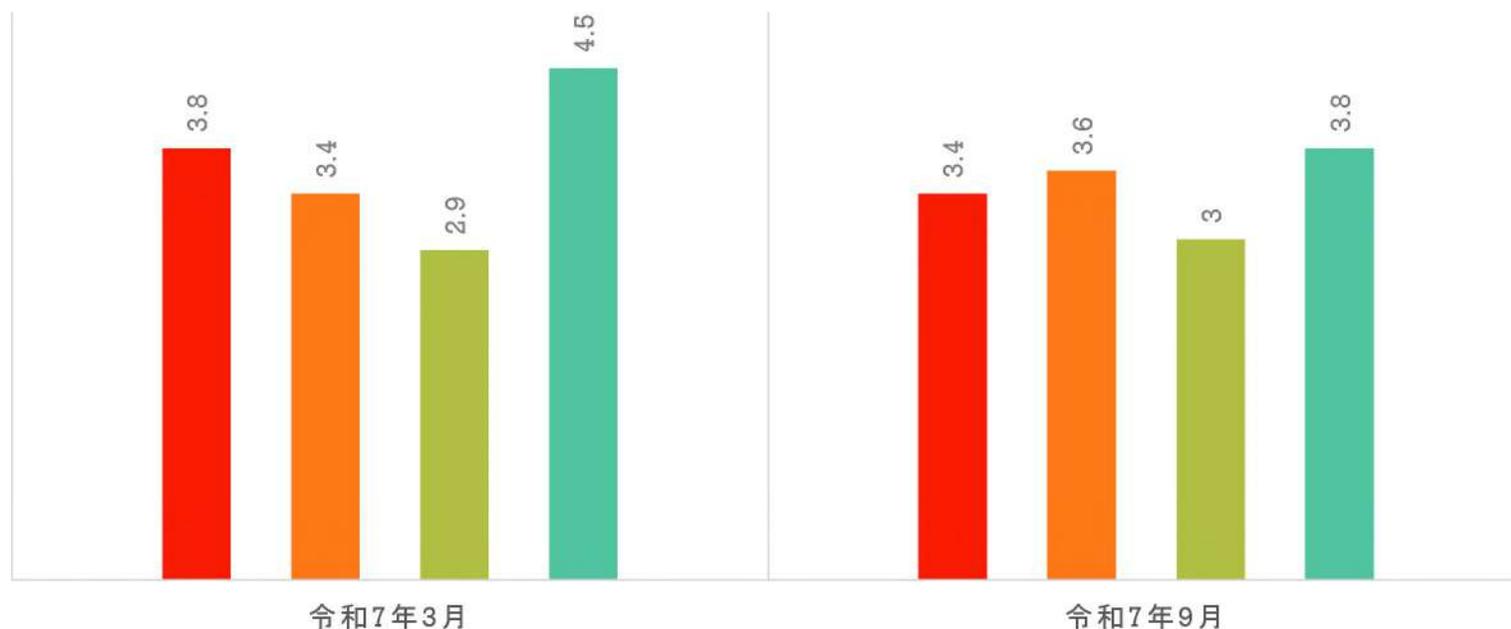
- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

- アンケートにて
- 身体的負担、精神的負担、満足な介助実感、一人介助困難度を集計した。

入浴に関するアンケート

■ 身体的負担 ■ 精神的負担 ■ 満足な介助実感 ■ 一人介助困難度



手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月1日～9月15日

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 設定した成果指標における効果検証

- アンケートにて
- 身体的負担、精神的負担、満足な介助実感、一人介助困難度を集計した。

アンケートより…

- 身体的な負担と一人介助の難易度が大きく改善 → リフトキャリーは効果的
- 精神的負担がやや上昇 → 操作習熟や心理的プレッシャーが課題
- 満足な介助感は微増 → さらなる活用方法や職員教育で、利用者・職員双方の安心感を高める余地あり。

現場からは、

「不安定で怖かった介助を安心して出来るようになった！」

「寒い時期には湯船に入れてあげるのが楽しみ。」

「使い方をはやくマスターしたい。」という前向きな声が聞こえ始めている。

また

「ひとりに対する所要時間は長くなるので、繁忙日には操作が難しい」といった声もあり、入浴以外の業務改善や、**操作の習熟による“ゆとり”は課題**

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月15日～9月30日

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいった点・その要因

・導入の第一歩を踏み出せたこと

→ 実際に使ってみることで「意外と簡単」「これなら使えそう」という声が現場から出た。

・職員や利用者の成功体験が広がったこと

→ 久しぶりの入浴に笑顔が見られたり、「できた」という職員の声が励みになった。

・置き場所やマニュアル、充電ルールなど、 仕組みを明確に整備できたこと

→ “どう使うか分からない”を防ぎ、実践につながる環境をつくれた。

手順 5 : 改善活動を振り返ろう

取組期間 : 4月15日～9月30日

手順
5

- 効果検証
- 上手くいった点、いかなかった点の整理・分析

● 取組全体を通して上手くいった、いかなかった点の整理・分析

□ 上手くいかなかった点・その要因

・業務が忙しいと、つい後回しになることがあった

→ 気づいたら物置にしまわれたまま…という日もあった。

・最初是一部の職員しか使わず、現場全体への定着が難しかった

→ 「使う人が決まっている」という状態が続いた。

・“やろう”と決める意識を持たないと進まない

→ 「時間ができたらやる」では導入は前に進まなかった。

・周りを巻き込む力が必要だと実感した

→ 一人では続かない…使う仲間を増やす工夫が必要だと気づいた。

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 4月30日～9月30日

手順
6

- 実行計画の練り直し

● 取組(全体)を通して見直したこと

- ① 利用者がリフトキャリーに乗り、居室からシャワー室まで移動予定だった
→ 移動中の寒暖差が大きく、浴室内のみでの使用に変更した
- ② 入浴後に、リフトキャリーから椅子に移乗し更衣介助する予定だった
→ 想定よりもリフトキャリーの撥水性が高く、キャリーに乗せたまま体を拭き、服を着せてから車椅子へ移乗できるとわかった
→ 移乗の回数が減り、安全性の向上につながった
- ③ 利用者の体格によってスライド動作時に皮膚を巻き込むリスクがある
→ 観察を強化するように周知した

手順 6 : 実行計画を練り直そう

取組期間 : 4月30日～9月30日

手順
6

- 実行計画の練り直し

● 取組(全体)を通して見直したこと

- ④ 担当者が自ら同意書を取らないと対象者が増えず、時間がかかっていた
→ 対象者を職員がリスト化し、同意を取れる方針にチェンジ
→ 職員が主体性を持つようになった
- ⑤ 常に脱衣所にリフトキャリーを置くことにした
→ リフトキャリーは重量があるので、使用しない利用者も、
手すりとしてつかまる事が出来るようになった

最初に立てた計画よりも、**現場での“気づき”**をもとに柔軟に運用方法を見直すことが重要だと実感した。**小さな“使いやすさ”の工夫**が 職員の心理的なハードルを下げ、日常使いへの定着に繋がった！

取組を通じて気づいたこと・重要と感じたこと

最も苦勞した点

“機器を使うこと”そのものへの抵抗感があること

「うちの施設では難しい」「壊しそうで怖い」

「やっぱり手でやった方が早い」「ただでさえ人がいないのに」

…このような声が最初はたくさん挙がる

気が付くと、リフトキャリーが物置に移動していることもあった

購入したのに、導入できるのか不安が続いていた

乗り越えるきっかけ

まずは一人の利用者さんに使わせていただいた。

職員と一緒に、慎重に、丁寧に 試してみても成功した瞬間が

“やってもいいかも”という空気に変わった瞬間だった。

「おお～」という小さな歓声が上がり、輪が広がっていった！

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

導入前の状況…

利用者によっては浴槽に入ることを諦めていた。

理由としては…

- ・職員の平均年齢が高い
- ・入浴時の移乗は、ほぼ“人の力”に依存
- ・介助には2名必要で、職員の身体的・精神的な負担も大きい

だから無理だと決めつける空気があった。

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

導入して気づいた“変化”

「とても難しい操作だと思っていたけど、やってみたら意外とできた」

「中高年の職員でも操作できた」という反応があった！

利用者が久しぶりのお風呂で気持ちよさそうに笑顔に！
「垢がしっかり落ちたね」と、ケアの質を実感した。

職員から「これは他の人にも使えそう」と
前向きな声が上がった

次世代介護機器導入を考えている事業所の方へ伝えたいこと

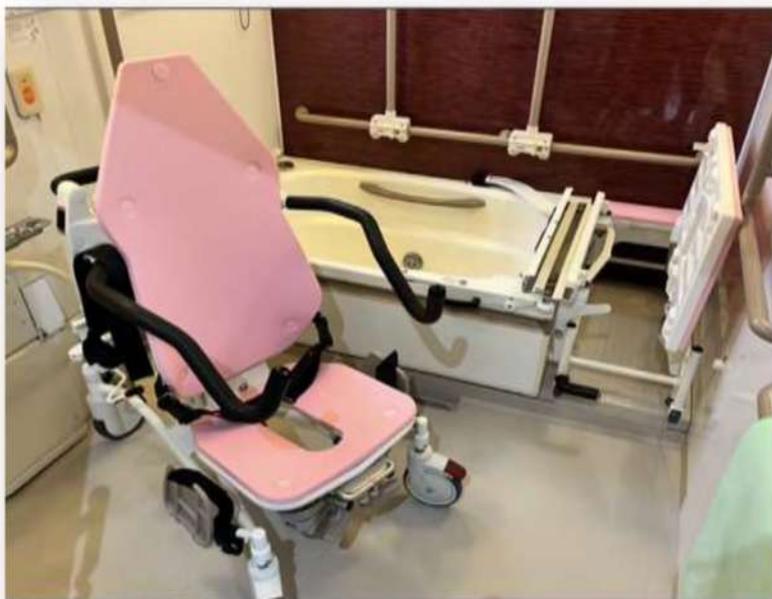
これから伝えたいこと…

- ・「難しそう」より「まず一人のために試してみる」こと
- ・次世代機器の力で、“諦めていたこと”ができるようになる

- ・「不安な介助」が「安心して出来るケア」に変わる

- ・「職員の負担軽減」と「利用者の満足度向上」は、両立できる！
（これまでは天秤になっていた…）

小さくても、現場の“できた”という経験が次の一歩になる！
ポジティブな声も必ずあるはずなので、
現場の「これならできる！」を諦めずに支えることが大切。



この取り組みが、現場と心を一つ
にするきっかけにも
なりました！

ご視聴いただき
ありがとうございました！